


 巻頭言

持続可能な開発目標 (SDGs) への 農薬産業の貢献



住友化学株式会社 にし 西 もと 本 れい 麗

はじめに、本年1月突然お亡くなりなられた上路前理事長の生前の農業業界へのご指導に対し、衷心よりお礼申し上げます。上路先生は数々の執筆および講演が行われているが、2009年の日本農学会創立80周年記念のシンポジウム「世界の食料・日本の食料」において、「食料の安定供給と安全確保をめざす農薬利用技術」というタイトルで、農薬の役割、農薬の開発目標と事例、これからの植物保護について、わかりやすくサイエンスベースのアプローチで話題提供をされている。この内容は、小職が現在会長を務めている農薬工業会(以下「工業会」)が進めているビジョン活動のコンセプトの先駆的なものといえる。上路先生が追い求めておられた、農薬の適切な使用をベースとして安全で安定的な食料生産により社会に貢献していくという精神を引き継ぐ意味でも、ここで工業会のビジョン活動を紹介したい。

工業会のビジョン活動の背景には、世界の食糧問題がある。1960年以降、農耕地面積は約10%しか増加しておらず、人口増加に対して単位面積当たりの収量を約270%伸ばすことにより需要を支えてきている。単位面積当たりの収量増は、優良な種子開発、灌漑設備の充実、肥料・農薬等の農業資材の投入によるものである。2050年に向けて、世界人口は約100億人に達すると推定されている。今後も、安定的に食糧を供給していくためには、農薬などの農業資材を適切に使用することにより、農業生産性の向上が必須となる。そのため、工業会は2013年創立60周年を迎えたことを契機に、会員会社の若手メンバーが多くの関係者の方々にインタビューを行い、工業会に求める要望などに基づき将来ビジョン「JCPA VISION 2025」を策定した。それをベースにその後、「食料生産の重要性と農薬の役割」について会員周辺、農業関係者、アカデミアの3方向への周知活動を実施している。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」には17の目標があり、国際機関、各国政府、非営利団体、地方自治体等の共通言語となりつつある。そのため、工業会ビジョン活動とSDGsの関連性をマッピングし、ビジョン活動を通じてSDGsへの取り組みを「見える化」し情報発信している。まず、農薬の役割をSDGsと関連して説明する。日本植物防疫協会における調査結果にもあるように、農薬を使用しなかった場合、

水稲では約8割に、りんごでは1割以下の収量となってしまいます。農薬使用による農作物の収量・品質の確保は、SDGs目標2「飢餓をなくし持続可能な農業を推進する」に結びつく。現在の世界の農耕地は約15億haと推定されており、もし農薬を使用しない場合40億ha以上が必要になり、草地・森林を農耕地にしなければならない。農薬による収量確保の結果として、農耕地面積の拡大を防ぎ目標15「緑の豊かさを守る」に深く関係する。次に、水稲栽培における除草時間は、1949年に10a当り51時間かかっていたものが、除草剤の使用により2012年には1.4時間まで軽減されている。農業の効率化に貢献することは、目標8「農業の成長産業化」につながる。それに加えて、食品製造段階で混入するカビ毒の防止には、農薬の適切な使用による麦類赤かび病防除が必要であり、目標3「全ての人に健康を」にも関連している。農薬はこれらの役割を担うことで持続可能な社会をつくることに貢献している。

さらに、1980～2016年の世界の主要企業による新規剤の上市品数は、日本企業が31% (114剤/363剤)、2016年の後期開発品数では日本企業が全体の約40% (15剤/39剤)を占める。世界的に見れば日本の農薬企業の規模は小さいが、日本企業の新規剤開発力は相対的に高い。このように、新たな製品や技術を創出することは、目標9「産業と技術革新の基盤をつくる」に貢献する。昨年、工業会ホームページにビジョンページを設けている。当会がビジョン活動を通じてSDGsにどのように取り組んでいるのかについて、より多くの方々に情報発信しているので、是非当会ホームページをご覧ください。

農薬取締法の一部改正に基づく新たな再評価制度の導入、使用者安全や生活環境動植物への新たな評価方法の導入等々、農薬の安全性確保に向けて、国際的調和も視野に入れ、かつ最新の科学の進展に基づく制度がまさにこれから導入されようとしている今、上路先生とご一緒に課題に取り組めないことが残念でならない。今後は、上路先生が工業会に指導してくださった「サイエンスベースのアプローチ」を忘れることなく、会員各社とともに農薬産業、ひいては日本と世界の農業発展のために尽力していきたい。

(日本植物防疫協会理事、農薬工業会会長)